

3年ぶりに復活

9月14日から16日まで、白河提灯まつりが開催されました。東日本大震災の影響で3年ぶりの開催となった今年は、勇壮な行列と幻想的な提灯の明かりが、復興に向けた白河を盛り上げる記憶に残る祭りになりました。今月号では、3日間の熱い様子を写真やインタビューでお届けします。



①御神橋（たいこ橋）を渡る神社神輿
②観客から歓声があがった先達提灯の技
③まちなかを元気にする子どもたちのお囃子

350年の歴史と伝統を受け継ぐ

白河提灯まつりは、徳川家綱時代・藩主本多能登守忠義が神輿を鹿嶋神社に寄進したことから始まり、武家社会の格式を取り入れた独特の祭りです。350年の歴史と伝統を現代に受け継いでいます。

初日は鹿嶋神社から御旅所（桜町）まで、2日目は九番町から御旅所まで、3日目は向寺から鹿嶋神社まで、約8,000個の提灯が行列となってまちを歩きます。また、日中は、子どもたちに引かれ練り歩く各町の山車・屋台や、2・3日目にされる神社神輿の町内渡御もあります。

白河提灯まつり

豆知識

□汗と努力の結晶“先達提灯”
先達提灯をあげるには、2本を同時にあげる息の合った動きが求められるため、先達提灯の担当は、1か月以上前から練習をします。その積み重ねた努力が巧みな技を生み出し、観客を魅了します。



□たいこ橋を渡るには“土のうの高さと担ぎ手の感性”がポイント
行列がたいこ橋を渡りやすくするため、宮本や横町・田町の立ち会いのもと、高さを確認しながら事前に土のうが積み上げられています。神輿行列が渡る時には、神輿係の指示のもと、神輿が傾かないようにうまく担ぐ感性が必要です。



□祭りを取り仕切る宮本（桜町）の役割
桜町は、御旅所があり、神社に一番近い町であったことから、宮本と言われます。最後尾から行列を警護し、神輿を守り、祭事を主宰する役割を担っています。
祭りの口上は、代々、口伝で引き継がれてきましたが、正確に伝えるため、「宮本世話人の手引き」が作成され、各人が勉強して伝統の文化を守っています。



④拝殿の神事（浦安の舞）
⑤川を渡る神輿の幻想的な様子

祭りを終えて Interview



復興につながる白河の底力と絆
宮本氏子総代 須永敏行さん

今年は3年ぶりの開催で、祭りをより良いものにして参加者が特に力を入れたこともあり、大変な盛り上がりを見せた白河提灯まつりになりました。3日間、天候にも恵まれ、例年にない大勢の観客が訪れました。
また今年は、渡河の際に阿武隈川の河畔にかがり火がたかれ、川面に映るかがり火と提灯の光が雰囲気さをさらに盛り上げました。
各町の世話人や、壮者が集まり組織する壮者会の活躍により、3日間、無事祭りを遂行することができました。復興につながる、白河の底力と絆を見ることができた祭りになりました。



一生の思い出です

大久保勝義さん (双葉町)

仮設住宅に住む双葉町の仲間4人で、丸の内町内の行列に参加しました。

下駄を履いて歩くことに不慣れで、特にたいこ橋を渡るのが大変でしたが、鹿嶋神社に到着したときは、集まった神輿の数に感動しました。

白河の伝統行事に参加することができて、とても良い経験になりました。一生の思い出です。



▶左から大久保さん、池田寛さん、岸川勝利さん、渡辺清一さん



川を渡る神輿に感動しました

佐藤ツギ子さん (浪江町)

神輿が川を渡る様子を仮設住宅に住む仲間と観ました。浪江町の「安波祭」で神輿が海に入るところは見たことがありましたが、川を渡る場所は初めて見たので、とても感動しました。提灯の明かりがとても幻想的で、歴史を感じるお祭りでした。

また、お祭りの前から、近くで先達提灯をあげる練習をしているのを見て、参加する方のお祭りにかける意気込みを感じました。その長い先達提灯を支える力には驚きました。



懐かしさを感じました

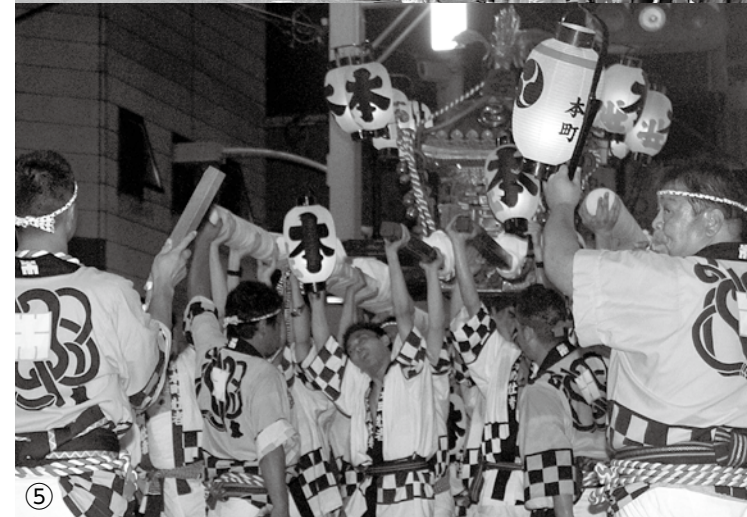
渡辺チカラさん (イラストレーター/京都市)

京都に住んでいるので、全国的に有名な夏の「祇園祭」を毎年観ていますが、京都の祭りに比べて、白河提灯まつりは日本のお祭りだと感じました。提灯の明かりや、壮者の「ワッショッ！ワッショッ！」という威勢のいい掛け声など、どこか懐かしさを感じるお祭りでした。

3日間、まちはこの祭り一色に染められ、祭りに関わる人も見る人たちも楽しそうでした。特に、子どもたちの軽やかで小躍りするような足取りが忘れられないです。

多くの観客が感動した白河提灯まつり

今年は、文化センター（中田）の大型スクリーンで、普段観ることのできない初日の拝殿での神事や、出発の様子が生中継されました。さらに、インターネットでの生中継は3日間行われ、遠方に住む方からは、祭りの雰囲気味わうことができたという声が届きました。また、祭りをPRするため、本市の友好都市等の首長、議長の皆さんを招待しました。鹿嶋神社で神事を観た那須塩原市の阿久津憲二市長は、「江戸時代から続く伝統ある儀式に、格式を感じるすばらしい祭りです」と話していました。



④各町の山車・屋台にはたくさんの子もたちが参加
⑤観客を引き付ける迫力ある神輿



①まちなかを練り歩く神社神輿の町内渡御
②御旅所に並ぶ幻想的な提灯
③中学生の元気な高張提灯

伝統と格式を今に

